

第3回 日タイ観光WGの開催

2024年8月26日～27日

会場：【1日目】現地視察（8/26） チョンブリー県タキアンティア・コミュニティ

【2日目】意見交換（8/27） モーダス パタヤ ビーチフロント及びオンライン配信（日タイ逐次通訳）

委員：（日本側）【コアメンバー】

運輸総合研究所：奥田専務理事／アセアン・インド地域事務所（AIRO）所長（共同議長）、富田AIRO次長

国土交通省観光庁：河田観光戦略課長

日本政府観光局（JNTO）：竹内企画総室長

在タイ日本国大使館：山川一等書記官

日本政府観光局（JNTO）バンコク事務所：中杉所長

【講演者】

日本旅行業協会海外旅行推進部国際センター：伊東所長

運輸総合研究所：鈴木研究員

（タイ側）【コアメンバー】

タイ王国観光・スポーツ省（MOTS）：モンコン副次官（共同議長）、ゲサラポン国際部長

タイ王国観光・スポーツ省観光局（DOT）：シワボン氏

タイ国政府観光庁（TAT）：チャンティマーポン氏

コンベンション・エキシビジョンビューロー（TCEB）：ナパットマネージャー

持続可能な観光のための指定地域管理局（DASTA）：ワンビヴァ戦略管理部長

カセサート大学・研究開発推進機関「タイ科学・研究・イノベーション」（TSRI）：プーリワット准教授

【講演者】

持続可能な観光のための指定地域管理局（DASTA）：ワンビヴァ戦略管理部長

タイ国政府観光庁（TAT）国際協力部門：プロイチョンブー氏

■開催背景

運輸総合研究所では、タイ王国観光・スポーツ省と協力し、2023年12月に日タイ観光ワーキンググループを立ち上げ（併せて第1回としてキックオフを開催）、第2回は「国と地方のアイデンティティ・地方への観光客誘致のための原動力～日タイにおける戦略的取組とベストプラクティスについて～」のテーマについて日タイ双方で活発な議論を行った。第3回となる今回は、コミュニティベースドツーリズム（CBT）の優良事例であるチョンブリー県タキアンティア・コミュニティの現地視察を行い、その後、「『地域主体の観光振興について』～コミュニティベースドツーリズムのベスト・プラクティスに関する意見交換～」と題して、現地視察を踏まえた意見交換及びCBTに関する両国の今後の協力可能性について議論を行った。

■視察概要

1. バーン・ロイサオ・カルチャーセンター

（1）歓迎：タキアンティア・コミュニティについての紹介

タキアンティア・コミュニティは、名産品であるココナッツを活かし、12年前よりDASTA（持続可能な観光指定地域管理局）と協力して、観光開発を開始。バーン・ロイサオ・カルチャーセンターは102本の柱により支えられた伝統的な家屋であり、建物内や現地の工芸品等を見学。ココナッツの殻のペイントや押し花のバックを作成できるアクティビティーに加え、3～4年ほど前からホームステイも提供している。ココナッツを使用した商品（ココナッツオイルやお菓子等）の販売も行っている。CBTコミュニティの代表例として多くの観光関係者が視察に訪問している。



(2) ココナッツを使ったコーヒー・お菓子の試食体験



(3) ココナッツを使用した調理体験

ヤングココナッツの殻、鶏肉を香辛料で炒めた現地ならではのメニューを調理し、昼食で試食。敷地内から採れた野菜を利用し、またスタッフは現地の主婦がメインで、収益が直接地域に入る仕組みとなっている。



2. バーン・ファーサイ

(1) ココナッツの殻を使った手芸品製作体験

バーン・ファーサイではココナッツの殻を活かした染物体験を行った。茶色の染物が特徴。使用したココナッツの殻は肥料として再利用されている。

(2) ディスクゴルフ体験

スポーツ・ツーリズムの場として活用したいと考えている、ココナッツ農園を活かしたディスクゴルフを体験した。

(3) 日タイ共同によるココナッツの木の植樹

奥田専務理事とモンコン副次官が共同で、新しいココナッツの木の植樹を行った。3年程でココナッツの実がなるまで成長する。



■意見交換 開催概要

1. 開会挨拶

(1) モンコン副次官

- ・タキアンティア・コミュニティはCBTの成功事例としてASEANからも認定されている代表的な地域であり、本日のWGでは日本側の積極的な感想・意見を教えていただきたい。
- ・タイは「Ignite Thailand」というビジョンの下に地方都市の観光振興を推進。観光客へ土地ならではの新しい体験を提供することも重要と認識。

(2) 奥田専務理事

- ・タイが推進するCBTの代表例であるタキアンティア・コミュニティを視察し、ココナッツを使った料理、染物、ディスクゴルフを体験し、現地の方々の温かいおもてなしの下、貴重な体験をさせていただいた。
- ・本日、活発な議論を行い、日タイ両国の観光振興及び交流の更なる促進につなげたい。

2. 有識者説明

(1) DASTA（持続可能な観光のための指定地域管理局）：ワンビヴァ戦略管理部長

講演テーマ：タイにおけるコミュニティベースドツーリズム（CBT）の開発

コミュニティにおける観光を通じた持続可能な開発を目的とするDASTAの役割について説明。DASTAにおけるコミュニティの開発時の計画や指標、ツールについて紹介。実際にそれらを活用し地域とDASTAが協力しながら開発を進めたことで、タキアンティア・コミュニティは、成功に至ったことを説明。

(2) TAT（タイ国政府観光庁）国際協力部門：プロイチョンブー氏

講演テーマ：CBT観光プロモーション ～タキアンティアのケーススタディ～

TATでは、CBTとして外部に販売できる体制が整った地域（DASTAによる開発事業の後）においてメディアファームトリップを含むキャンペーンやマーケティングプロモーションを実施していることを説明。これまでのCBTプロモーションの取組みを実際のPVを示しながら紹介。タキアンティアはTATとDASTAおよびTCEBが連携してプロモーションを実施した一例であることにも触れ、さらに国内のみならず海外へのプロモーション等の支援を行っていることを説明。

(3) 日本旅行業協会海外旅行推進部国際センター：伊東所長

講演テーマ：日本の旅行業界と海外旅行販売の現状と課題

日本の海外旅行販売の現状について、コロナ前と比較し、未だ回復途中であること（日本からタイへの旅行者は平均以下の回復率。なお、トルコ・韓国が好調）を説明。航空座席の不足、旅行代金の高騰が現在の課題であることを説明。

JATAは海外旅行販売促進のため、台湾や香港とのイベントを企画し、その国でしか味わえない体験が重要であると強調。

(4) 運輸総合研究所：鈴木研究員

講演テーマ：観光を活用した持続可能な地域経営に関する研究

JTTRI、UNツーリズム、観光庁が共同で作成した「持続可能な地域経営の手引き」について説明。

事例として岐阜県を取り上げ、11のステップと3つのフェーズ（課題抽出、指標の設定、PCDAサイクルの推進）を通じて成功に至った経緯を説明。観光・農業・伝統文化を包括的に推進し、周遊滞在型観光地として確立できたことを強調。



3. 議論

(1) タキアンティア現地視察を踏まえた意見交換

(日本側からのコメント)

- ・無農薬でココナッツを栽培しており、サステナブルな観点からも、安全で質の良いココナッツを収穫できる点からも優れている。また、人々のホスピタリティーが素晴らしいだけでなく、料理体験、染物体験、ディスクゴルフ、ホームステイ等、収入源が豊富である点にも感銘を受けた。今後に向けて、学生向けの教育旅行を提案。
- ・更なる発展のために、ココナッツが市場でどのような商品となって流通しているかをプラスして紹介すること及び観光における食事の重要性を指摘し、現地の人が多く利用するレストランを紹介することの2点を提案。
- ・タイでは、①どのような方法で住民の観光参画の同意を得ているのか、②次世代のCBTリーダーとしてどのように若者を育成しているのか、について質問。

(タイ側からの回答)

- ・①CBTへの参加意欲に基づいて、住民を3つのグループに分類し（参加したい、参加したいかわからない、参加したくない）、コミュニティ開発に参加することによるメリット・デメリットを説明。さらに、CBTによる利点についても住民とDASTAで擦合せを実施。
- ・②タイの若者間の起業トレンドを利用し、ソーシャルエンタープライズのスキームを活用。また高齢者と若者のペアリングによる育成およびコーチングを実施。

(2) CBTに関する日タイの今後の協力可能性について（テーマ：鉄道駅周辺の観光開発）

(タイ側 TAT)：JR北海道から受領したKIHA183について触れ、タイ人の間では現在、鉄道旅行がトレンドであり、MOTSとTATは鉄道を活用した観光旅行のプロモーションを推進中であることを説明。JTTRIと協力して、景観デザイン、地域産品、観光アクティビティー、コミュニティ参加を改善するため、「鉄道観光の体験の設計に関する研究：Talat Phlu 観光コミュニティの事例研究」(“Study for the design of train tourism experience: A case study of Talat Phlu tourism community”)を実施したい。第3回WG終了後の8月28日に現地視察を提案。

(日本側 JTTRI)：Talat Phluの現地視察を行った上で、関係者で打合せを行い、協力の方向性を検討したい。

4. 閉会挨拶

(1) モンコン副次官

- ・本日のWGで共有された知識や視点を今後も積み上げ、両国でCBTを更に発展させていくことを願っている。
- ・今回のWGが無事に開催されたことに日本側及びタイ側関係者に御礼申し上げたい。
- ・第4回WGも両国の協力のもと、日程を調整していきたい。

(2) 奥田専務理事

- ・第2回及び第3回のWGにおいて、「DMO等による観光地の魅力創出・プロモーション」、「高付加価値化による地方への誘客」、「観光を活用した持続可能な地域経営」の重要性等について議論を行った。
- ・第4回は議論を取りまとめた上で、その内容が広くASEANに共有され、この取組が日タイ観光の更なる振興に向けて有益なものとなることを期待。

